

生きる力をはぐくみ新しい時代を拓く木津川っ子を目指して

平成27年12月 木津川市教育委員会

平成27年度木津川市児童生徒の全国学力・学習状況調査結果

木津川市の各小中学校では、子どもたちが、未来の社会を自立し、豊かに生きていく基盤を育むため、全ての子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、一人一人の能力、個性を最大限に伸ばす質の高い教育の推進に努めております。

子どもたちの健やかな成長のためには、子どもたちの現在の実態を直視し、学校・家庭・地域社会が連携し、地域ぐるみで子どもを守り育てることが大切です。

この度公表された平成27年度全国学力・学習状況調査結果を基に、木津川市の子どもたちの学力と生活実態の状況についてお知らせし、保護者の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。

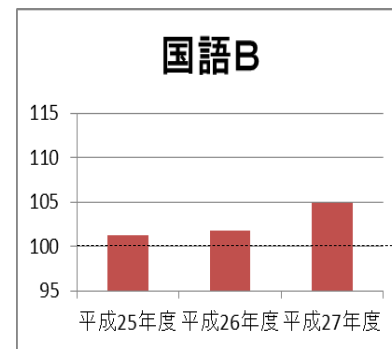
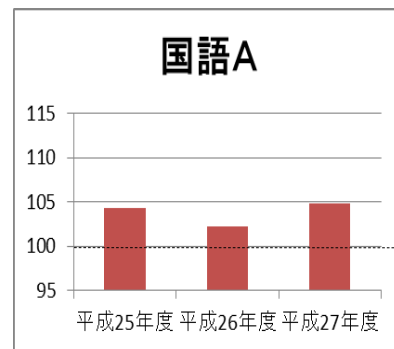
学力の状況

全ての教科で、市の平均正答率は全国平均を上回っています

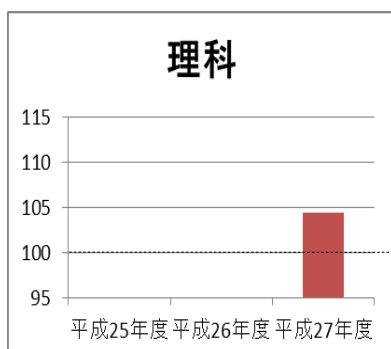
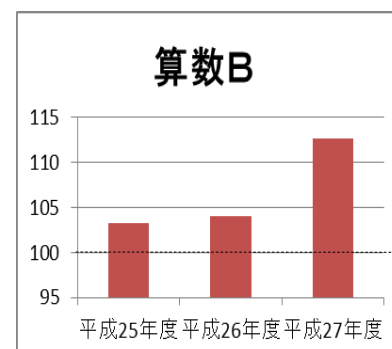
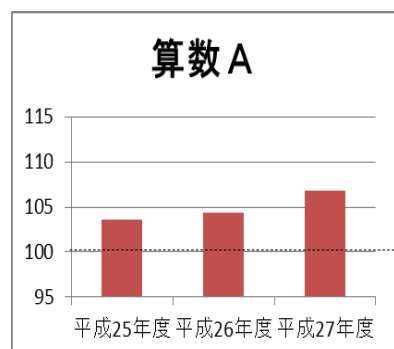
本市の児童生徒の平均正答率は、全ての教科において全国平均を上回り、特に、小学校の算数A・B、中学校の国語A・B、数学A・Bは、全国上位レベルに達しています。

今後とも、個々の児童・生徒に視点をあて、より確かな学力の定着とさらなる「活用」能力の伸長を目指していきます。

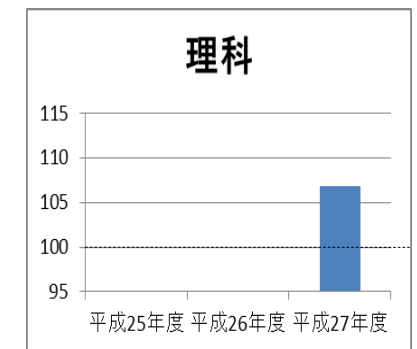
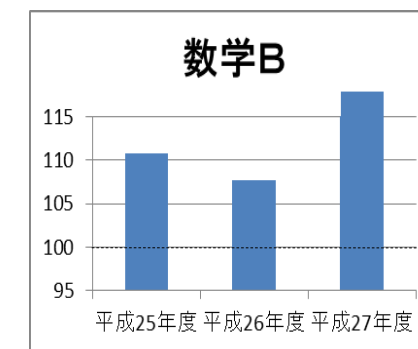
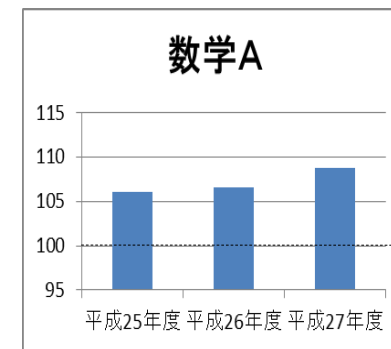
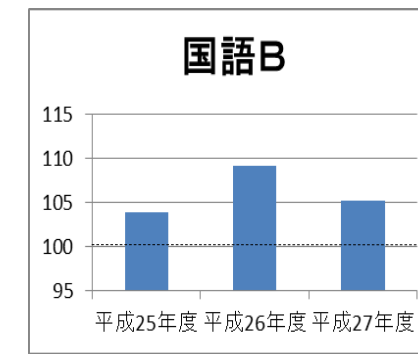
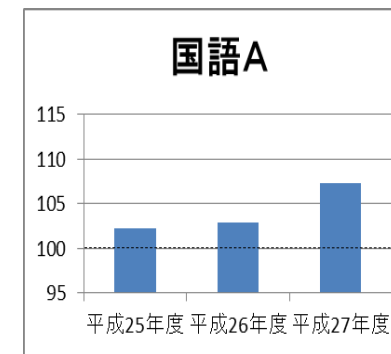
【小学校6年】



*国語、算数、数学について、
A=知識に関する調査
B=活用に関する調査
を指しています。
*学力調査グラフは、全国平均を100として表しています。
*理科は、3年に1回程度実施されます。



【中学校3年】



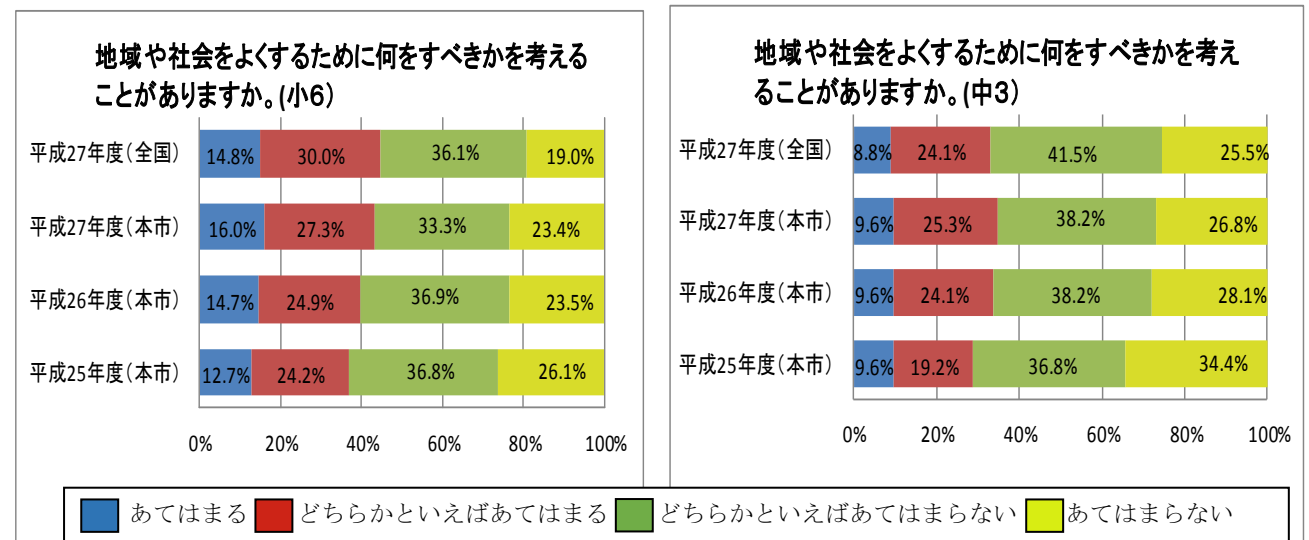
子どもたちの安心・安全があつてこそ

木津川市の子どもたちの学力向上の背景には、日々の安心・安全な学校生活が欠かせません。

特に、雨の日も風の日も、子どもたちの登下校を見守っていただいているボランティアの皆様への支えは絶大なるものです。また、木津警察署をはじめ、民生児童委員さん、青少年健全育成委員さん等、子どもたちの安心・安全を支える様々な関わりも大きな力となっています。

登下校のみならず、挨拶運動や環境整備、学習支援等、地域の方々の様々なご支援に学校教育は支えられています。改めて感謝申し上げますとともに、今後も、地域ぐるみで子どもたちを育ていけますようご協力をよろしくお願いいたします。

地域の皆様の温かさが、子どもたちの地域への関心の深まりにもつながっています。

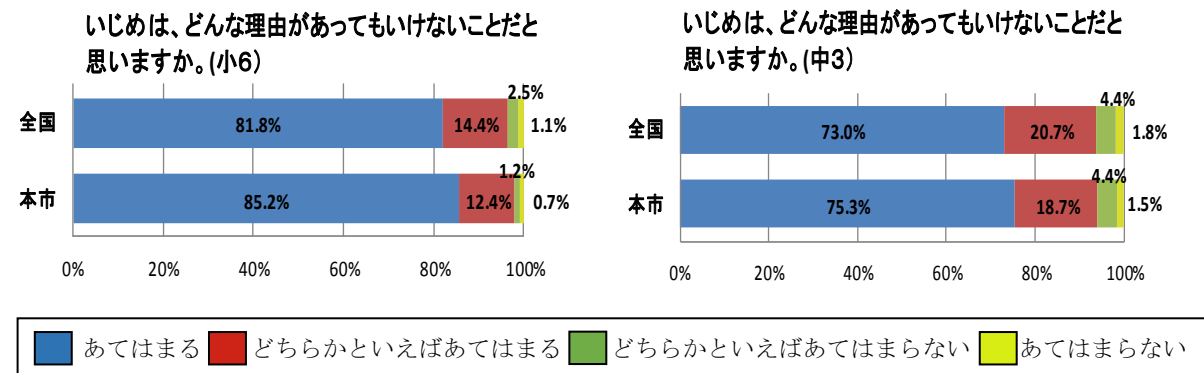


生活の状況

いじめに対する意識の向上を

いじめは、深刻な問題です。学校では、いじめアンケートや担任による児童生徒との相談活動を実施するとともに、日々、いじめの根絶に向けて、児童生徒の心に人とのいいつながりの大切さを訴え続けています。

ご家庭でも、子どもの心に寄り添い、人を思いやる感性の育成に努めていただいておりますが、悩み事があれば親と相談する等の雰囲気作りに、更なるご尽力をいただきますようよろしくお願いいたします。



いじめ相談に関する機関

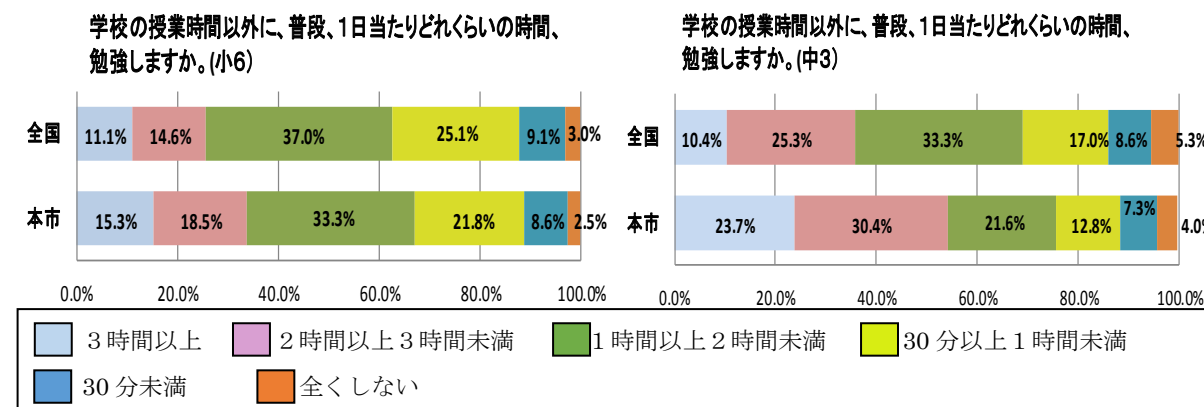
木津川市いじめ防止等対策チーム（木津川市教育委員会学校教育課内） **75-1230**
 少年サポートセンターヤングテレホン **075-551-7500**
 24時間子どもSOSダイヤル **0570-0-78310**
 京都いのちの電話 **075-864-4343**

家庭での学習習慣の定着を

家庭での学習習慣の定着には向上が見られます。子どもたちの学力向上の源の、大きな一つであると言えます。

自ら学ぶ意欲の高まり、また、「学び方」の習得を目指すことを、学校においても重視して取り組んでいます。

ご家庭での温かい励ましの一言が、さらなる子どもたちの成長につながります。今後ともよろしくお願いいたします。



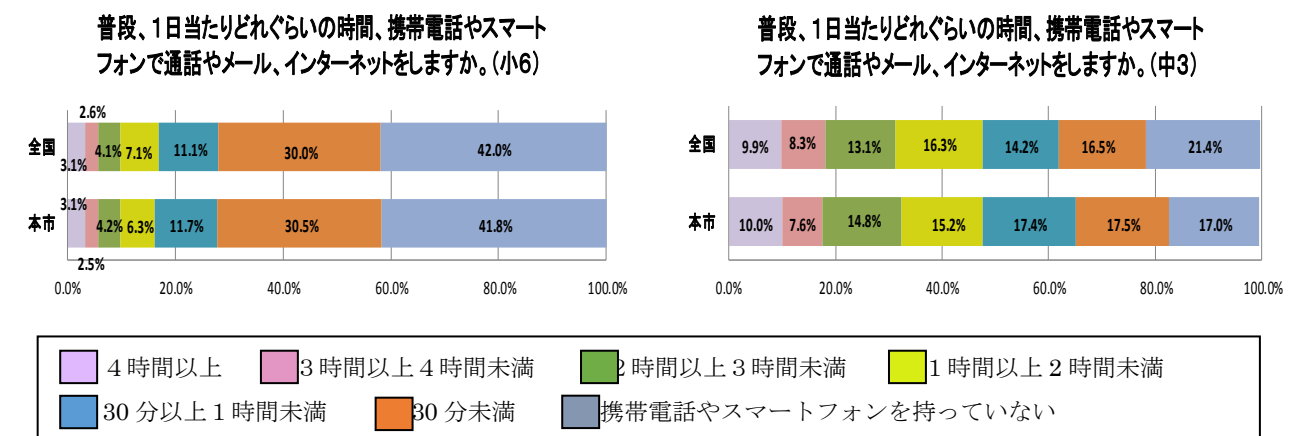
携帯電話・スマホといつき合い方を

携帯電話やスマートフォンの所持率は、小・中学生とも増えてきています。長時間使用する子どももいます。

知らないうちに高額サイトに繋がっていた、ラインやメールのやり取りがいじめにまで発展した…等、携帯電話やスマートフォンをめぐるトラブルは後を絶ちません。

学校では、持ち込みを禁止するとともに、情報モラルに関する学習やケータイ教室等を実施し、携帯電話やスマートフォンの正しい使用について学習しています。

しかしながら、家庭でのルール作りが、何より大切であります。ご家庭で携帯電話やスマートフォンと、いつきあい方をするための話し合いを行ってください。



「自分が好き」と言える子に

「自分にはいいところがある」「自分は人の役に立っている」と感じながら過ごしている子どもたちほど、学習意欲が高く、生き生きと生活できることは明らかです。

自己肯定感、学力向上や、よい人間関係構築の源と言えます。

少しずつですが、子どもたちの自尊感情は育っています。「できたことを誉めよう」「いいところを伸ばそう」という周りの大人の関わりがあってこそです。

家庭と地域と学校が協力し合って、「自分が好き」と言える子を育てていきましょう。

自分が好きな子は、元気いっぱいの挨拶ができるはずです。

